

〔塵添壙囊抄〕七 百敷事

或人ノ説ニ、百姓トハ本朝ノ源平藤橘四姓分レテ百姓ト成ル、其内廿氏ハ公家、八十氏ハ武家也、仍テ物ノ武ノ八十氏ナンド云ト、又此由注セル物モ侍ベリ、然共難信用説也、

〔南留別志〕四 一四姓といふ事は、天竺にある事なり、源平藤橘を四姓といひたるは、佛法を信するあまりに、何事も天竺の事をよしと思ひて、それに擬していへるなり、はてはかた田舎の人は、此四つより外は姓はなしと思ひて、外の姓の人も、皆此四つの内にあらためたれば、今はまことに此四つより外はなきやうになりたり、安倍伴朝原、丸子、巨勢、高階、春日、滋野、滋岳、笠、苅田、葛城、葛井、御船、當麻、賀茂、家原、御輔、佐伯、都、布瑠、高丘、三原、三善、大原、粟田、田部、島田、田中、高橋、菅野、錦部、豊階、志紀、御室、布勢、秦、槻本、若安、早部、朝野、蕃良、六人部、都努、賀陽、五百木部、安濃、飛鳥、戸、川上、石川、鶺鴒、吉野、猪甘、茨田、手島、坂合、丹羽、稻置、飯高、大坂、五百庵、波多、黒川、長谷部、川邊、蘇我、雀部、治田、櫻井、服部、岸田、平群、佐和良、坂本、日下部、阿毘古、春日部、三枝、稻木、土形、大石などの類は、姓なりといふ事は、大かたは、是らで、四姓の内になりたるおほかるべし、

〔玉勝間〕三 姓氏の事

よに源平藤橘とならべて四姓といふ、源平藤原は、中昔より殊に廣き姓なれば、さもいひつべきを、橘はしも、かの三うちにくらぶれば、こよなくせばきを、此かぞへのうちに入ぬるは、いかなるよしにかあらん、おもふに、嵯峨天皇の御代に、皇后の御ゆかりに、尊みそめたりしならひにやあらむ、かくて此四姓のことは、もろこしぶみにさへいへる、そはむかし、この人の物せしが語りつらむを、聞て、ゑるしたなるを、かしまでしられたること、よにいみじきわざにぞ思ふめる、すべて何事にまれ、この事の、かしの書に見えたるを、ば、いみじきことにおもふなるは、いとおろかなることなり、すべてかの國の書には、その國々の人の語れる事を、さけるまゝ、にゑるせ